

第3回「ATAMI2030会議」

熱海リノベーションまちづくり構想検討委員会

日 時 平成28年9月27日(火)

18:00～20:30

場 所 小山臨海公園 南あたみマリンホール
下多賀541-12

今年度熱海市では「リノベーションまちづくりと融合した創業支援による地域活性化」事業の一環として、リノベーションまちづくり構想を策定します。

策定にあたっては、不動産オーナーや有識者による委員会を設置し、今回を含め年度5回の公開型会議を開催いたします。この会議は、市民や民間事業者、創業希望者など様々な方にご参加いただき、2030年を見据えた熱海の「暮らし」「仕事」「ツーリズム」を考え、行動に移すきっかけの場にしたいと考えています。

遊休化した不動産という空間資源と潜在的な地域資源を活用して、民間自立型プロジェクトを起し地域を活性化し、都市、地域経営課題を複合的に解決するため、熱海のまちを変える方向性をみんなで議論し、構想という形でまとめます。

第3回目は「林業とエコな暮らし」をテーマに、ゲストによるトークや事業者によるミニトークを行った後、会場を交えた意見交換を行いました。

○次第

1. あいさつ・・・熱海市観光経済課 課長 立見 修司
2. 開催趣旨と今回のテーマのご説明・・・熱海市観光経済課産業振興室 主幹 長谷川 智志
3. ゲストトーク 「週末は木こり暮らし」
みかんぐみ共同主宰/東北芸術工科大学教授/建築家 竹内 昌義 氏
4. 休憩(10分)
5. 実践者ミニトーク × 3
大工 太田 大翔 氏
手塚 純子 氏
NPO法人自伐型林業推進協会 上垣 喜寛 氏
6. 会場も交えた意見交換

○内 容

まず初めに、第3回「ATAMI2030会議」の開催にあたり、熱海市観光経済課長立見から、この会議を通して得た皆様の熱意を行政運営に反映していきたいと考えている。3回目となる今回の会議も活発な意見を頂戴できることを期待していますとの挨拶に続き、市の担当者からこの会議の趣旨及び前回までの会議の概要並びに今回のテーマ設定、「林業とエコな暮らし」の説明が行われました。



その後、ゲストトークとして「週末は木こり暮らし」と題し、みかんぐみ共同主宰・東北芸術工科大学教授で建築家の竹内昌義氏による日本の住宅・健康問題・エネルギー・断熱等の説明が行われました。



休憩後、実践者によるミニトークが行われました。まず始めに大工の太田大翔氏により、熱海の山で木を育て、伐採・製材・加工して使用したい。また、建材としてだけでなく工芸材などありとあらゆる方面で木を活用したいとのお話をいただきました。続きまして、手塚純子氏により、函南にて実施しているアースバックハウスや軽トラモバイルハウス、古民家 DIY ワークショップ等のお話をいただきました。最後にNPO法人自伐型林業推進協会の上垣喜寛氏により、自伐型林業とはどういう林業なのかご説明をいただきました。

その後、委員を含めた約100名の参加者による意見交換が行われました。

江口委員からは竹内氏の講義にもあった断熱性能は建築業界にとっては深刻な問題だと考えていた。日本の一番高い基準がドイツの一番低い基準に達していないと聞いたこともあった。しかし、本日から、出来ることから始めればよいという話を聞き(例えばDIYでやっているところであれば、一番上の基準を目指すのではなく下のレベルでもゼロよりは良い等)、建築に携わる者としての荷が少し軽くなった。また、自分自身も参加し楽しむことが重要だと感じた。

大久保委員からは観光地熱海として市外からくる人たちに対して楽しむコンテンツが多くあり、今まで気づけなかった資源が発見できたと感じた。市内の資源を利用し収入を得ることで、外にお金を出すのではなく循環させることが重要。また、木材を建材だけに使用するのではなく、彫刻・アート作品にすることもあり、子供たちにナイフを使わずことで経験商品にも成り得る。そういった、工夫のしがいがあるまちだということはこの会議を通して市民の方が気づき発見できると感じた。

内田委員からは熱海の林業はまだまだコンテンツが足りない。そこで例えば小さくてもよいのでツーリーハウスを建てるとか、グランピングとか伐採後の環境も観光ニーズにつながるのではないかと感じた。また、熱海の木を使用した、お洒落な木桶等の木工製品をお客様に提供出来たらよいと感じた。それと、旅館やホテルは日々リニューアルが行われており、そこに熱海の木を使用すればお客様へのアピールにつながると感じた。そして、自分自身もそうだったが、熱海で林業のことを考えたことがなく大変勉強になったし、断熱でいうと旅館ホテルはなにもできていないと思うので今後考えていきたい。

水野委員からは12月に母屋のリノベーションを予定しているが、これまで廃材等を使い合理的に行おうと考えていた。しかし、竹内氏の話聞き断熱やエネルギーのことを考えることは良いことをやっているようで実は合理的であると感じたので取り入れたい。また熱海の木材を使うこともいままで考えたことがなかったので取り入れたい。



その他意見

- ・伐採後の林道を使って自転車のレースが可能でありスポーツを通じたツーリズムも期待できる。
- ・自転車レースのようなイベントも大事だが、トレイルランのように日常化できる・ライフスタイルに成り得る山の使い方ができるとよい。
- ・熱海の伝統工芸として楠細工があるが、現在絶えつつある。従来型のやり方だけだとだめで、色々な方の知恵をかり工夫していくことが重要であると思う。
- ・自伐型林業推進協会の上垣氏に質問で、熱海の手も国有林がほとんど占めていると思うが、国との折衝とかも行ってくれるのか。

- 熱海の森林面積が3,877ヘクタールであり、そのうち民有林が2,892ヘクタールで約75%、国有林が約25%である。また、民有林のうち市の土地が788ヘクタールで全体の約20%という状況である。(市担当者)
- 基本的には自伐型林業では国有林には手を付けていなくて、担い手の育成に力を入れています。兼業で林業を行う場合、1人あたり約20~30ヘクタールの土地が必要となる。熱海のよいところは、市がすごく協力的であるということです。先ほど説明があった市の土地を研修先として使用できたり、民有林の持ち主に対しコーディネートしていただけたりするので担い手がやりやすくなる場所です。(上垣氏)
- ・黒岳ハイキングコースをたまにトレイルランで使用するが、景色も良いし気持ちが良い。新しく作るだけでなく今あるものを有効活用すれば観光にもつながる。
- ・断熱改修のワークショップをやったらどうか？(清水氏から竹内氏に対し)場所はないか？
 - ナギサート(オーナーの吉田氏から)及び富西寺(水野氏から)それぞれから手が上がった。
 - リノベーション物件での断熱の話が聞かれることが多く、ワークショップを行うことが観光コンテンツになり得ると感じた。そしてワークショップ頑張ります。(竹内氏)
- ・学校教育にもっと森林教育を取り入れていければと感じた。
- ・竹内氏に質問で、地元の木材を使用した住宅の方が環境に良かったりするのかわ。
 - 木の性能としてはそんなに違いはないと思う。しかし、考え方や気持ちの問題として地域経済の役に立っている、あるいは地元の木材が使用されるまでのストーリー性とかが重要で価値があることだと思う。(竹内氏)
- ・静岡市で林業女子会を行っており、熱海は可能性があると感じた。また、熱海の木材だけでなく静岡県の材木も使ってもらいたい。広めたい。
- ・移住先を探してこの会議に参加させてもらった。午前中にまちや山を見せていただきライフスタイルが豊かになるイメージが出来たので移住を決めたい。そして住むなら地域に貢献したいし事業にしたい。ただし、住む家が見つかるかが問題。

